

科目名 Course Name	ガイドヘルパー講座II Course of Study on Mobility Guide II				ナンバリング No.	J4-010							
年次	2年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習						
担当者氏名	久保 由佳												
連絡方法	C-Learning で対応。または福祉棟 2F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。												
必修／選択	選択(ガイドヘルパーエンティティ必修)												
関連 DP	DP1, DP2, DP5												
授業の概要と 到達目標	<p>全身性障害および強度行動障害のある人の移動支援に関する基礎知識と技術を学習する。</p> <p>①全身性障害および強度行動障害のある人の日常生活を捉え、障害のある人の思いに気付くことができるようとする。</p> <p>②車いすの基本構造を説明でき、点検および操作ができるようとする。</p> <p>③全身性障害のある人の移動支援方法と留意点を説明でき、安全かつ安楽な車いすでの外出支援ができるようとする。</p> <p>④強度行動障害のある人の障害特性から利用者像をイメージできるようとする。</p> <p>⑤強度行動障害のある人の適切な外出支援方法を選択できるようとする。</p>												
授業の方法	講義、演習、視聴覚教材の視聴、グループワーク、事例検討、発表等、多様な授業形態をとる。車いすでの移動支援に関する演習(第5回目)は、屋外でも実施する。												
学習成果	L01	全身性障害のある人の移乗と移動支援技術を習得し、車いすでの外出支援ができる。 強度行動障害のある人の障害特性をふまえた外出支援ができる。											
	L02	障害のある人の気持ちを考え、適切に接することができる。											
	L03												
	L04												
課題に対する フィードバック	体験やグループワーク後は振り返りの時間を設け、留意点等をフィードバックする。強度行動障害の支援に関する事例分析では、発表後に解答例、考え方、支援方法を示す。												
教科書／ 参考図書	<p>①ガイドヘルパー研修テキスト 全身性障害編 中央法規出版(第1~5回授業時に使用)</p> <p>②強度行動障害支援者養成研修[基礎研修・実践研修]テキスト 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える 中央法規出版(第6~12回授業時に使用)</p> <p>③新版 同行援護従業者養成研修テキスト 中央法規出版(第13~15回授業時に使用)</p>												
履修上の留意点 やルール等	<p>●ガイドヘルパー講座IIだけの履修は認めない。ガイドヘルパー講座I、IIIも必ず履修すること。</p> <p>●ガイドヘルパー講座I~IIIの単位を取得し、必要な手続きをすると、「修了証明書」が発行される。</p> <p>●演習時は内容によって、動きやすい服装等、身だしなみを整えてもらう。詳細は随時連絡する。</p> <p>●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回45分とする。</p>												
担当教員の実務 経験													

成績評価の方法と基準

評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	S 評価は、①使用教材を準備し、必要なことはノートにとっている。②実技演習の際は身だしなみを整えている。③積極的に参加している。	20			
レポート／作品	S 評価のレポートは、演習を振り返り、学びや気づき等、自分の考えが具体的に記述できていること。	20			
発表					
小テスト					
試験	全身性障害の移動支援や行動援護について出題する。	50			
その他	第10・11回目の内容を評価する。S 評価は、事例を的確に捉え、利用者の視点で考えられている。支援方法が具体的であり、工夫している。	10			
合計		70	30		

回数		授業計画
1	授業内容	基本的な移動の介護に係る技術に関する講義①:全身性障害者の理解(90分)
	事前・事後学習	配布資料を読み、全身性障害に関する主な病態と症状および生活障害を確認する。
2	授業内容	基本的な移動の介護に係る技術に関する講義②:車椅子の種類と機能、姿勢保持(90分)
	事前・事後学習	テキストP123～143を読む。配布資料を読み直す。車椅子の各部の名称を覚える。
3	授業内容	基本的な移動の介護に係る技術に関する講義③:移動支援時の留意点(30分) 車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習①:生活行為の介助(60分)
	事前・事後学習	テキストP147～149を読む。配布資料を読み直す。各地のパンフレットやWebサイトを使い、外出支援に関する情報(バリアフリー情報、多目的トイレマップ等)を調べる。
4	授業内容	車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習②:車いすへの移乗介助(90分) 【レポート1:演習の振り返り、提出は第6回目の授業時】
	事前・事後学習	配布資料を読み、移乗介助の手順や根拠、留意点を確認する。レポート1を作成。
5	授業内容	車いすでの移動の介護に係る技術に関する演習③:車いすでの移動介助(90分)
	事前・事後学習	テキストP180～198を読み、車いすでの移動介助方法を確認する。レポート1を作成。
6	授業内容	強度行動障害と生活の組み立てに関する講義(30分) 基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習(60分)
	事前・事後学習	テキストP110～120を読み、アセスメント(情報収集)の方法と重要性をまとめる。
7	授業内容	行動障害の背景にある特性の理解に関する演習(90分) 【レポート2:演習の振り返り、提出は次回授業時】
	事前・事後学習	障害特性の疑似体験を振り返り、レポート2を作成する。
8	授業内容	障害特性の理解とアセスメントに関する演習①:事例分析(90分)
	事前・事後学習	テキストP18、P314および配布資料を読み、氷山モデルの考え方を確認する。事例をもとに行動の理由、障害特性、支援方法を考える。
9	授業内容	障害特性の理解とアセスメントに関する演習②:事例分析[発表とまとめ](90分)
	事前・事後学習	事例分析の内容をまとめる。テキストP68～81を読み、障害特性をふまえた支援を確認する。
10	授業内容	環境調整による強度行動障害の支援に関する演習①:グループによる事例分析[障害特性に基づくアセスメント、外出支援計画の検討](90分) <外出支援計画と支援手順書の作成>
	事前・事後学習	事例をもとに障害特性、要因となっている環境や状況を整理し、必要な支援を考える。外出支援計画を作成する。
11	授業内容	環境調整による強度行動障害の支援に関する演習②:グループによる事例分析[支援手順書の作成](90分)
	事前・事後学習	外出支援計画をもとに、利用者と支援者の動き、必要な支援や配慮、事前準備などを支援手順書にまとめる(支援手順書の作成)。
12	授業内容	記録に基づく支援の評価に関する演習(90分)
	事前・事後学習	テキストP165～174を読む。配布資料を読み直す。障害者虐待の現状を調べる。
13	授業内容	誘導の応用技術(場面別・街歩き)①:街歩きの支援技術(90分)
	事前・事後学習	テキストP133～143を読む。誘導時の留意点をまとめる。誘導方法を確認・練習する。
14	授業内容	誘導の応用技術(場面別・街歩き)②:場面別支援技術(90分)
	事前・事後学習	テキストP144～150を読む。各場面をイメージし、誘導方法を確認・練習する。
15	授業内容	交通機関の利用:電車、バス、船・飛行機の乗降(90分)
	事前・事後学習	テキストP151～159を読む。乗降および乗車中の留意点をまとめる。